

創刊号では出張所職員の全面協力によ

り地域代表者の挨拶からスタート。自分  
の初原稿は第3号の三角形のクイズでし  
た。難題でしたが正解者があり、とても  
感動しました。メンバーが揃い編集者と  
して活動を始めたのは第4号からで、桜  
地図作りは自転車で地域内を走り回り、  
とても楽しかったです。主に企画を担当  
しましたが、募集原稿は中傷が多く使え  
ず、地域の歴史を知り、残す事を考え戸  
越公園、品川用水、伊藤博文邸、使える  
ウォーキング地図等を企画、写真は自分  
が写っていれば良いが他人にはどれも同  
じで興味がない。そこで楽しく見ていた  
だくためにハードビジュアル等特殊なイラス  
トの多用を提案。手間は掛りますが読者  
に楽しんで頂ければ嬉しく、作画担当の  
塚本氏、佐藤氏には、とても感謝してい  
ます。 一葉1丁目町会 櫻井 英夫

### 最後のひとびと

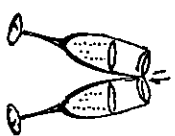
一葉3丁目 小林 紀子

数十年前に一人の人物の本に出会いま  
した。ターシャ・テューターのドールハ  
ウス(ミチユアの世界)ターシャの庭  
づくり、ターシャ・テューターの言葉  
ターシャのアップブック、この人はア  
メリカのホストに生まれ父親は飛行機  
やヨットの設計者、母親は肖像画家、30  
歳でニューヨークの田舎に越し16  
年後にバーモント州の山奥に18世紀風  
の農家を立てて一人暮らしを始める。こ  
の時すでに56歳。この何冊かの本、写真  
集が手芸好きの私と交えてくれた。とき  
めきの本です。私の父も飛行機作りの職  
人、母は手先の器用な和裁の先生でした。  
運命とも思える出会いの本です。  
現在も、ものづくりにハマっています。

### 新米編集委員のまま...

一葉2丁目 岩田 純子

編集委員となり。一年が過ぎたばかりの  
新米委員のままで「第五つしん」が廃  
刊となってしまいましたが、一度  
原稿を書き機会があり、紙面に載  
った時は、小さな感激を味わいました。  
又、先輩委員達の紙面作りに奮闘する  
真摯な姿も、目の当りにし、個性の  
強い委員会の中で、自分の責任を  
果たし「第五つしん」を繋いで  
来た姿勢に、編集のイロ以上の多くの  
事を学んだ思いが致します。  
ありがとうございます。  
「29年間お疲れ様でした。  
さあ！皆で美酒に酔いませよう」



### サヨウナラ第五つしん

\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

編集委員が各号輪番で編集後記・ひとりを載せてきました。廃刊にあつ  
て各委員に最後の「ひとり言」を記していただきました。  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

編集委員に仲間入りさせていただき、  
約半年がたちました。右も左もわからな  
いままお手伝いできたのは、この最終号  
のみとなりました。

の「心意気  
を感じました。  
これからは  
「ゆふ」への  
架け橋となっ  
ていけるよう  
に、がんばり  
たいと思いま  
す。



一葉1丁目 藤田千寿子

### 回想

一期一会

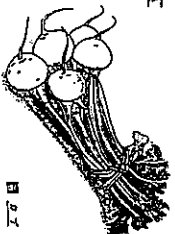
豊町2丁目親和会 北村 紀子



第五つしんに携わって14年、最初の  
取材は、新人3人で「最中の皮」を製造  
販売している老舗のお店だったのが懐か  
しく思い出されます。  
その後、品川用水、荏原・東海七福神、  
遠くは富岡製茶場、スカイツリー、地区  
まつりでのキコウリ売り、手芸教室、仙  
台味噌等々。取材を通じて多くの出会い  
があり、人々の優しさと温かさに触れ、  
多くの経験が出来たことに感謝し、お手  
伝いする機会を得たことを誇りに思っ  
ています。センターの皆さん、編集委員の  
皆さん、ありがとうございます。お疲れさまでした。  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

### 編集委員のひと一言、アラカルト

初めの一歩、チャレンジ精神を忘れず  
にと編集の一員となり歩み出したが多難  
の数々、専門用語も分からず不安と心細  
さ。横須賀散策、富  
岡製茶場と取材に参  
加し、又左手で描く  
絵手紙、陶器作りに  
励む中山さん(第104  
号)に勇気づけられ、  
悩み喜びの繰り返し、  
張ってきた8年半、  
最終号となり淋しき  
です。ありがとうございます。  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*



一葉神明 長尾 春代

### 振り向けば13年

豊町4丁目 瀬瀬 三子

第81号(平成16・6・1)で「1カ  
1丁ノ豊町(都道補助26号線整備用地)  
を紹介して10年になります。私も家庭菜  
園を楽しんでいます。隣の額賀さん家  
は種類が多く、キコウリ、インゲン・メ  
ロン・スカ(つる性)・トウモロコシ・  
トマト・ナス・オクラ・枝豆。お母さん  
の目的は、グリーンカーテンにすること。  
お父さんはピールのつまみ。ミニトマト  
は色づくど、小学4年生の娘さんが  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*

一葉中央町会との関わりは、大学を卒業  
して八百屋を手伝ってまもない昭和51  
年、当時の松野町会長から区民消防隊の  
結成の要請が始まりました。町会役員さ  
んから可愛がってもらい町会活動が楽し  
く、その後奨励調査員、町内のカラオケ  
と踊りの会、昭和61年には第五つしん  
平成に入ると阿波踊り、明るく選挙推進  
協議会、一葉中央神輿会、区政モニター、  
民生委員と、人生の半分以上地域・町会  
に関わってきました。松野町会長、富士  
原副会長、飯塚町会長、林神輿会会長に  
書も勉強中。 一葉中央 川名 義男

「登校時に撮まんで行くんですよ」とお  
母さんのコメント。ムロツは、昨年20数  
個も実り食べ、見るのもいやになつたぞ  
うです。とても微笑ましい家族風景です。  
親子レクリエーションの  
材のきつかけでした。  
「兎角、隣は何をする  
人ぞ」の世の中ですが、  
地区委員会の事業が子どもたちを通して  
人々や町を繋ぐ機会をつくっていること  
を実感しました。このような話題をこれ  
からも伝えていきたいからです。



うやく完成となります。  
編集委員会は予算なしで活動するホラ  
ンペイグループです。唯一発行紙の印  
刷費のみ発行の都度申請手続きを行い区  
より支給を得ています。  
編集会議・取材関係・資料コピーなど  
の諸経費は自己負担で  
処理となっています。  
本号で廃刊です。委員  
の皆さん長い間、苦勞  
さん、ありがとうございます



一葉1丁目 塚本  
いきました。

作文と絵描きは不得手、そして編集経  
験なしの私が承諾なしで編集委員として  
登録されてしまった。しかし、推薦者で  
ある町会長の顔を立てて断ることはしな  
かった。編集委員を務めて28年になる。  
残念だが事務局の都合により今年で廃刊  
することになった。  
編集委員数は当初は12名。現在は2町  
会欠員の9名でがんばっています。  
第五つしんは編集会議・取材・インタ  
ビュー・写真記録・原稿作成・イラスト  
作成・ウェブ打ち・印刷などを経てよ  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*  
\*\*\*\*\*